２―４　2025 年度実施 博士前期課程修了生アンケート【アラムナイ室】

対象者:2020 年度修了者、2022 年度修了者、2024 年度修了者
実施期間:2026 年１月７日～２月６日実施

年度		2020	2022	2024	計
世界言語社会	修了生数	89	99	99	287
	回答者数	14	12	5	31
	回答率	15.7%	12.1%	5.1%	10.8%
国際日本	修了生数	47	27	39	113
	回答者数	6	3	3	12
	回答率	12.8%	11.1%	7.7%	10.6%
地域・国際	修了生数	2	-	-	2
	回答者数	0	-	-	0
	回答率	0.0%	-	-	0.0%
博士前期計	修了生数	138	126	138	402
	回答者数	20	15	8	43
	回答率	14.5%	11.9%	5.8%	10.7%

修了した専攻、履修コース

専攻	コース	回答数
世界言語文化社会専攻	言語文化コース	17
	国際社会コース	13
	PCS コース	1
国際日本コース	国際日本コース	11
	日本語教育リカレントコース	1
計		43

現在の状況について

教育研究機関で勤務	9
教育研究機関以外で勤務	26
就職活動中	2
進学	4
その他	2

本学大学院に進学した目的・理由(自由記述)

・省略

目的・計画はどの程度達成されたか

達成できた	13
ほぼ達成できた	23
あまり達成できなかった	6
全く達成できなかった	1
不明	0
回答しない	0

本学博士前期課程で修得できたこと（複数回答）

学問分野の枠にとらわれない知識・思考	25（58.1%）
様々な課題に対応できる総合力	19（44.2%）
独創的な思考で課題に取り組む能力	20（46.5%）
課題解決に必要な情報・資料を的確に収集し、分析する能力	34（79.1%）
明確な論理展開、わかりやすい表現を備えた文章を執筆する能力	23（53.5%）
回答しない	2（4.7%）

本学博士前期課程に不足していること（複数回答）

学問分野の枠にとらわれない知識・思考	9（20.9%）
様々な課題に対応できる総合力	8（18.6%）
独創的な思考で課題に取り組む能力	10（23.3%）
課題解決に必要な情報・資料を的確に収集し、分析する能力	6（14.0%）
明確な論理展開、わかりやすい表現を備えた文章を執筆する能力	10（23.3%）
回答しない	11（25.6%）
その他	4（9.3%）

＜その他の回答＞

・省略

現在所属している機関の種別

教育研究機関	10
一般企業	18

公務員	6
自営業	2
その他	4
未回答	3

現在所属している機関の名称

・省略

現在の身分

学生(修士)	0
学生(博士)	4
常勤(無期雇用)	24
常勤(有期雇用)	5
非常勤雇用	2
その他	3
未回答	5

現在の職位(就職した方のみ、自由記述)

・省略

将来、研究者となることを希望するか否か

既に研究者としての職を得ており、継続する予定	4
既に研究者としての職を得ているが、将来的には企業での勤務を希望	0
現在は研究者ではないが、将来は研究者となることを希望	11
現在は研究者ではなく、今後も研究者となることは希望しない	19
その他	4
未回答	5

自身のキャリアを形成するうえで役立ったと考える学び(複数回答)

世界の諸地域の言語・文化に関する学び(特定の言語・地域に関する学び)	24(55.8%)
世界の諸地域の言語・文化に関する学び(特定の言語・地域に捉われない学び)	24(55.8%)
世界の諸地域に歴史・地域に関する学び	19(44.2%)
現代世界のアクチュアルな諸問題に関する学び	17(39.5%)

国際的な政治、社会、経済に関する学び	10(23.3%)
国際的なリーダーを目指すための英語による学び	5(11.6%)
現代日本語、日本語史、方言、対照日本語研究などの日本語学に関する学び	11(25.6%)
日本語教育の理論と実践に関する日本語教育に関する学び	19(44.2%)
古典文学、近現代文学、文化研究など、日本語文学・文化に関する学び	6(14.0%)
日本の伝統社会、現代社会、日本の歴史など日本社会に関する学び	11(25.6%)

キャリアを形成するあたり、本学が今後充実すべきと考える学び(複数回答)

世界の諸地域の言語・文化に関する学び(特定の言語・地域に関する学び)	12(27.9%)
世界の諸地域の言語・文化に関する学び(特定の言語・地域に捉われない学び)	12(27.9%)
世界の諸地域に歴史・地域に関する学び	6(14.0%)
現代世界のアクチュアルな諸問題に関する学び	11(25.6%)
国際的な政治、社会、経済に関する学び	13(30.2%)
国際的なリーダーを目指すための英語による学び	17(39.5%)
現代日本語、日本語史、方言、対照日本語研究などの日本語学に関する学び	6(14.0%)
日本語教育の理論と実践に関する日本語教育に関する学び	11(25.6%)
古典文学、近現代文学、文化研究など、日本語文学・文化に関する学び	5(11.6%)
日本の伝統社会、現代社会、日本の歴史など日本社会に関する学び	4(9.3%)
その他	9(20.9%)

＜その他の回答＞

・省略